病院図書館　2012:32(2):69-72

特集　総会・事例報告会（第127回研修会）

看護図書の分類法を考える

高橋眞由美

Ⅰ．はじめに

島根県立中央病院は、ベッド数679床、診療科37科を有し、三次医療機能を持つ基幹的病院として救命救急医療や高度特殊医療を提供しています。看護師数は約600名で、2011年はドクターヘリ運行開始に伴いフライトナースも誕生しました。

かねてから看護職者へのサービスの充実を考えていましたが、まず、基本的資料である書籍を探しやすくするための分類・配架について考えてみることにしました。

Ⅱ．当院の看護関係の蔵書

当院の看護関係の書籍は約2,000冊ありますが、古いものも含むため、600名という看護師数に対しては利用できる蔵書は少ないと言えるかもしれません。貸出数もそれほど多くありませんが、図書室は24時間利用できますので閲覧だけの利用者はたくさんいると思われます。書籍に比べて手軽に手にとれ、内容がup-to-dateな雑誌の利用者が多いように見受けられます。

購入図書は年に一度ないし二度、「希望図書」として募ります。各病棟、外来、部署別に希望図書を集計して、予算が許す限り購入を図ります。

Ⅲ．当院の書籍分類法について

当院の看護分野を含む書籍の分類法は、過去の図書原簿によると、図書を整備し始めた1960年代はNDC（Nippon Decimal Classification：日本十進分類法）を使い、1970年代からは徐々にNLMC（National Library of Medicine Classification：米国国立医学図書館分類法）に統一してきたようです。現在は、一般書以外はNLMCで分類しています。

NLMCは、形としては基礎医学を「Q」、臨床医学を「W」で表し、続くアルファベットで主題を分類し、さらに数字で細分化したもので、人体の器官優先で分類され、MeSHというNLM（National Library of Medicine：米国国立医学図書館）の医学用語集に基づいて行います。医学図書館や医学図書を多く持つ図書館の分類法といえ、看護（分類記号「WY」）は医学の一分野とみなされています。当院で利用している冊子体のNLMCは、1996年日本医学図書館協会発行の1994年第5版日本語版です。

NLMCは、1999年改訂5版まで冊子体で発行され、2002年版からはWeb版での公開となりました。現在は毎年改訂され、最新版は2012年版です。

Ⅳ．医学系図書館の分類法

多くの医学系図書館では、看護書籍を分類する分類法として、主にNLMC、NDC、および日本看護協会看護学図書分類表（Classification for Nursing Library）を利用しています。いずれの分類法も改訂を重ねて練り直され、時代や用途にマッチした優れた分類法となっています。図書館によっては一種類の分類法では分類しきれない資料があるため、他の分類法を併用したり、その館独自の分類法を作成して取り入れたりしているようです。

たかはし　まゆみ：島根県立中央病院　図書室

NLMCは、アルファベットと数字の組み合わせにより各項目間に幅があり、柔軟性、展開性、網羅性に富む分類法であるとの説があります。一方、日本語版を利用する場合、厳密には、原文の分類用語をMeSHで確認し前後関係を正確に把握するべきで、日本語の字面だけで判断すると正しい分類ができないということも起こる可能性があります。また、NLMCはアメリカの分類法ですので、アメリカ社会の概念で作成されており、たとえば「赤十字看護」など日本ではなじみの薄い事項も目にしますし、反対に、日本の現状を表すのに何か物足りなさを感じる場合もあります。

NDCは、0〜9の数を十進法でつぎつぎに細分化して主題を絞っていくという方法です。看護は492.9の部分にあり、9以下がまた十進法で細分化されて主題を絞っていきます。当初は492.9一つだけで、看護がそこに集中してしまい使いづらいものだったそうですが、その後、展開を重ねて細分化され、実情をくんだものとなっています。細分化により数字が何桁も続く不便さを指摘されることもあります。

日本看護協会看護学図書分類表はN分類とも呼ばれており、日本看護協会のホームページで見ることができます。日本では当初、看護分類にはNDCを使っていましたが、実態に合わないため、日本看護協会と日本図書館協会の協議を経て日本看護協会独自の分類法ができたようです。現在は2006年の第2版が使われています。この分類法は、もともと看護の知識がない人でも分類記号を付与できるようにと考えられた面もあり、基本的にシンプルで使いやすいと言われています。

V. 当院の分類作業

まず、インターネットでNACSIS Webcatの情報を確認します。それを冊子体NLMCと照らし合わせ、最終的にその本の購入希望者の所属部署を考慮して分類記号を付与しています。書籍によっては、そのような事情が分類に反映した結果目録規則から外れ、広く採用されている分類とは異なる分類となることもあります。そのあたりの事情は、図書原簿の備考欄に記録を残すことにしています。

一冊の書籍が書名・内容において複数の主題を持ち、分類記号付与で悩んだ2冊について述べます。

まず1冊目は『エビデンスに基づくハーブ＆サプリメント事典』という書籍です。この資料はがん専門看護師が購入を希望したため、WY156の「がん看護」の棚に分類・配架しています。しかし、この本がWY156では不自然に思われ、NACSIS Webcatで他の所蔵館の分類を調べてみました。499.87の「薬用植物」、WB925「臨床医学」の中の「薬草主義」、QV67「薬理学」の中の「薬草」、WA695「公衆衛生」の中の「食物」などさまざまで、その館の環境やどんな利用者が使うかによって分類の解釈が違うことが感じられました。

2冊目は『小児創傷オストミー・失禁管理の実際』という書籍です。これは外科看護師が購入を希望したため、WY161を付与し「外科看護」の棚に配架しています。利用者の多くは、看護師および小児科の医師です。NACSIS Webcatによれば、WY159「小児看護」やWY156.5「消化器科看護」という分類をしている館もありました。

VI. NLMC Web版を見て

普段は分類作業をするためにNLMC Web版を見ることはなく、手持ちの冊子体の分類表とNACSIS Webcatで済ませてしまうのですが、使用している冊子体のNLMCが1996年発行で最新版とは10数年の時間差があるため、当然何らかの変更点があるはずだと考えWeb版を見てみました。

NLMC初画面を見ると、"Class Number Added"といって追加の分類項目があったり"Canceled Class Number"といって削除された項目があるのがわかります。NLMCはMeSH用

語の概念で構成されていますが、このMeSH用語は最新の生命科学に対応できるよう毎年改訂されていて、新しい概念や語句の追加、修正があります。MeSHに対応しているNLMCには当然、追加項目や削除項目ができることになります。

「削除項目」は看護に関しては1978年以降2項目だけで、内容的にほとんど影響がないと思われましたので「追加項目」を確認してみました。2002年以降看護「WY」に関しては14項目が追加されており、そのうちのいくつかを見てみました。

まず、「Nurses' interpersonal relations（対人関係）」という項目が新たに加わり、また、かつては一つの項目の中にあった「Chronic disease nursing. Long-term care（慢性疾患看護）」と「Life support care. Terminal care（ターミナルケア）」がそれぞれ独立した項目となっています。また、同じく一つの項目にあった「Critical Care nursing」と「Emergency Nursing」から、「Emergency nursing」が独立した項目となりました。これら変更点は、社会状況の変化や医療現場の環境の変化を表すものだと思います。

次に、WY170「Forensic nursing」という見慣れない単語があり調べてみました。forensicとは「法医学」という意味ですので「法医学看護」と訳すことができます。これは、かつては看護技術の総記の中の一項目でしたが、時代の要請でクローズアップされてきたのか、独立した項目となっています。日本でもWY170を使用する社会がやってくるかもしれません。

時代の流れを感じた項目が、冊子体とWeb版共通のWY191「Male nurses」です。冊子体では「看護夫」と訳されています。今ならそんな日本語はなく、「男性看護師」と訳すことになります。日本では急速に男性看護師数が増加しており、今後この項目を目にする機会が増えることでしょう。NLMC第5版が発行された当時から、すでに一つの項目として独立するほど、アメリカでは男性看護師が多かったことがうかがえます。

当院ではNLMC Web版を利用して分類作業をすることはありませんでしたが、常に更新されているので新しい発見があり、より厳密な分類作業のために利用できますので、折りにふれて見ていこうと思っています。

Ⅶ. その他の工夫

利用者が本を探す時、頭に浮かんだキーワードで探すのも一つの方法だと思い、よく見聞きする用語で索引を作ってみました。これは、日本看護協会看護図書分類の「項目別索引」をヒントにし、あいうえお順に、看護分野の主な単語・用語をリストにしたものです。看護の書棚には「WY＋数字」のそれぞれの分類を表示しています。この表示とキーワード索引中の数字を対応させて使ってもらうことを意図しています。ふだん「こういう本はどこにありますか？」などと聞かれ、パソコンの目録で検索したり、書棚で直接探したりと時間的にすぐに対応できないことが気になっていましたので、この点が改善されると思います。索引中、見落としている用語や表現が正確でない用語もあると思われますので、随時改訂していく予定です。この索引の作成作業は蔵書の点検にもなり、配架位置が不適切なものを発見したりもしました。この索引はNLMCをそのまま使えますので、導入の手間もかかりませんでした。一般書を看護師が購入希望し、WYとして看護の棚に並べている場合は、特にこのキーワード索引は有効だと思います。

索引作成にあたって考えた面があります。概念は同じでも、言い方が違うものの扱いです。例えば、「ターミナルケア」と「終末期看護」はどちらもよく使われる用語であるため、両方載せることにしました。分類記号は同じWY152ですが、キーワード索引表では、それぞれ「た」と「し」の部分に載せています。

看護図書はイメージカラーをピンクにしており、棚の表示もピンクのテープを利用していま

す。

その他、別置の看護関連書籍は配架場所の案内を表示しています。例えば、WY153「感染管理」のところには、「感染症の本は室内“感染症コーナー”にも置いています」、また WY150「リハビリテーション（看護技術）」のところには、「リハの本は書棚 WB（臨床医学）にもあります」という表示を貼っています。

Ⅷ. おわりに

規則に忠実な分類・配架は言うまでもなく大切なことですが、利用者が本を探しやすく使いやすい状態を作る分類・配架も必要だと思います。どうすれば利用者が本にアクセスしやすいかを常に考えながら、分類・配架作業を行っていきたいものです。

今後、限られた蔵書を生かすために、再度書架内のチェックが必要だと考えています。また、正確で有効な分類を行うために、看護の専門用語、看護業務についての知識も必要だと思いました。

常に利用者の視点、求めているものを考えながらサービスを行っていきたいです。

この研究にあたって、広島県看護協会図書室、松山市民病院図書室から参考となる情報を提供していただきました。お礼申し上げます。

参考文献

1）和田佳代子：NLMC を中心とした看護分類表の問題点．看護と情報．1996；3：69-74.
2）今田敬子：看護図書の分類配架と司書の役割への期待．看護と情報．2005；12：7-11.
3）柴田正美．資料組織概説．新訂版．東京：日本図書館協会；1998.
4）NLM Classification Home Page.［引用　2012-05-10］
http：//www.nlm.nih.gov/class//
5）日本看護協会看護学図書分類表．第 2 版．［引用 2012-05-10］
http：//www.nurse.or.jp/nursing/education/library/pdf/bunruihyou.pdf